

はばひろい要求とりあげて

北区民の願い実現に奮闘



日本共産党 市議会議員

坂本 きょう子

マンション耐震偽装問題 でシンプオのパネリスト

市民に大きな不安が広がっているなか、市議団は党道委員会などと共催でシンプオをいち早く開催。坂本議員は建設委員長として市議団を代表してパネリストをつとめ、今回の偽装事件の内容と確認審査を行っている市の責任を明らかにし、再発防止策を提起しました。

敬老カードと介護保険の 改善とりあげて

改善がつよく求められている「敬老カード」。昨年の九月議会で、「カード」化に移行した初年度だからこそ、「利用実態の把握を行なうべきだ」とせまり、市は「一万人を対象に調査を行なう」とを約束。調査結果に示された利用者の声をくり返したりあげ、住民のみなさんの運動とも結んで、「追加購入と払い戻し」を実現させました。

四月から介護保険料が大幅に引き上げられ、五割から最大で八割もの負担増となる人が三万人にもなる実態を指摘し、大きな不安をかかえる高齢者の負担軽減のため、市独自の減免措置をつよく求めました。



耐震偽装問題のシンプオで報告する坂本議員（4月23日）

ジェネリック医薬品拡大、 医療事故の全面公開を

新薬と同じ成分と効き目で低価格のジェネリック医薬品が注目されています。全国の病院での平均採用率が二ケタ台なのに対して、市立札幌病院の採用率が六・三%と著しく低いことを指摘し採用の拡大をもとめ、「患者が選択できるようにしたい」との答弁を引き出しました。

また、一貫してとりくんできた医療事故の公表と再発防止の問題で、「すべての医療事故、医療ミスについて公表したい」と病院側が答弁。公立病院での全面公開は全国的にも画期的なことで、一般紙でも一面トップでとりあげられ反響をよんでいます。

子どもの「成長する権利」を守る条例に

札幌市の子ども権利条例は、現在策定準備がすすんでいます。

この条例の母体となる国連子どもの権利条約に貫かれている理念は「子どもの最善の利益」を守ること。子どもをめぐる状況が深刻化しているなか、発達・成長する権利が守られ、「権利の主体としての子ども」を社会が尊重し育んでいけるよう条例の名称に「権利」という言葉を盛り込むべきと求めました。

これに対して市理事者は条例名に「権利」を盛り込む姿勢を明らかにしました。



新琴似五番通りと JR高架下交差点 信号機ができました

このほど、新琴似五番通りとJR高架下の交差点に信号機が設置され、安心して横断できるようになりました。この信号機設置は、近隣の病院、商店を利用する方や地域の住民がつよく要望していたものです。工事が始まってすぐに、「近所の方々から」遂にできましたね。これで安心です」との声が寄せられ、「四年越しで地元の方々とりくんできたものが実現にこぎつけ、とてもうれしい」と、坂本市議は喜びを語っています。



来年の札幌市議選の予定候補者を発表

（第一次分）
党道委員会と市議団

日本共産党北海道委員会の青山慶二書記長と党札幌市議団の小川勝美団長は、6月19日、札幌市役所で記者会見し、来年春の札幌市議選の予定候補者を発表しました。なお、小川勝美、飯坂宗子両議員は勇退します。



井上ひさ子
手稲区、現



くまがい 憲一
西区、現



岩村よね子
南区、前



池田 ゆみ
豊平区、新



村上ひとし
厚別区、新



伊藤りち子
白石区、現



太田 秀子
東区、新



宮川じゅん
東区、現



坂本きょう子
北区、現



小形かおり
中央区、現